

STAMPEX JAPAN

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI

第7回全国切手展

スタンペックスジャパン2026活動報告書

Stampex Japan 2026, The Activity Report



STAMP EXHIBITION

STAMPEX JAPAN

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

NPO, Society for Promoting Philately

特定非営利活動法人

郵趣振興協会

Society for
Promoting Philately

第7回全国切手展「スタンペックスジャパン2026」活動報告書発行のご案内

年一回、桜の咲く時期に、郵政博物館で開催される、「スタンペックスジャパン」は7年目を迎え、日本の郵趣界に定着した全国切手展となりました。本年（2026年）は、3月28日から3月30日にかけて開催され、期間中の来場者は594名でした。

本催事は、ご協賛・ご後援・ご協力をくださいました各社・各団体の皆様、実行委員や審査員として運営にご協力くださった皆様、出品者並びに授賞式を兼ねるジャパン・フィラテリスト・サミット出席者の皆様、ディーラーブースにご出店くださった皆様のおかげで無事開催することができました。また、郵趣振興協会の正会員・賛助会員の皆様並びに、本展覧会に寄付をお寄せくださった皆様には、資金面でサポートをしていただきました。

以上の皆様へ、御礼も兼ねて活動報告書を発行し、翌年以降の開催に繋げる意図で、毎年活動報告書を発行しております。ご一読いただけましたら幸いです。

2026年4月1日
特定非営利活動法人 郵趣振興協会
理事長 吉田 敬

The activity report of the 7th National Stamp Exhibition ‘Stampex Japan 2026’.

Held once a year at the Postal Museum Japan during the cherry blossom season, Stampex Japan is now in its seventh year and has become a well-established national stamp exhibition in the Japanese philately. This year (2026), Stampex Japan was held from 28 to 30 March and attracted 594 visitors.

The event was successfully organised thanks to the sponsors, supporters and cooperation of all companies and organisations, all those who helped to organise the event as an OC member and judges, the exhibitors and attendees of the Japan Philatelist Summit 2026, which also served as the award ceremony of the Stampex Japan 2026, and all those who set up dealers’ booths. We would also like to thank the regular and supporting members of the Society for Promoting Philately, as well as all those who donated to the exhibition, for their financial support.

We publish a report on our activities every year as a way of expressing our gratitude to all these people, with the intention of linking the exhibition to subsequent years’ editions. We hope you will take the time to read it.

April 1st, 2026
NPO, Society for Promoting Philately
President
YOSHIDA Takashi

書籍名称：スタンペックスジャパン2026活動報告書
Stampex Japan 2026, The Activity Report

発行者：特定非営利活動法人 郵趣振興協会
NPO, Society for Promoting Philately
(〒102-0083 海事ビル内郵便局留置)

発行日：2026/4/5

発行部数：200部（非売品）

目次		
活動報告書発行のご案内		P. 2
目次 / 体制		P. 3
総括	(実行委員長 横山 裕三)	P. 4
審査総評	(審査員長 佐藤 浩一)	P. 6
会場の様子		P. 8
ジャパン・フィラテリスト・サミット2026 開催報告		P.10
スタンペックスジャパン2026 審査結果		P.12
スタンペックスジャパン2026 展示作品紹介		P.14
スタンペックスジャパン2026 クリティーク		P.17
寄付御礼		P.18
会計速報		P.19

体制

本展覧会は2団体共催で開催しております。郵趣振興協会により、審査員会および実行委員会が設けられております。

主催：郵政博物館

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

協賛：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

後援：日本郵便株式会社

協力：日本郵便切手商協同組合、切手市場、(一社)全日本郵趣連合、(公財)日本郵趣協会

ジャパン・フィラテリスト・サミット2026特別協賛：スタンペディアオークション株式会社

郵政博物館 (公益財団法人 通信文化協会)

特任研究員 藤本 栄助

学芸員 富永 紀子

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

理事長 吉田 敬

審査員会

審査員長 佐藤 浩一

審査員 陳 友安 吉田 敬

アプレンティス 木戸 裕介

審査事務 菊地 恵実

実行委員会

実行委員長 横山 裕三

ブース担当 守川 環

実行委員 鎌倉 達敏 菊地 恵実 木戸 裕介 丹羽 昭夫 藤本 博嗣 水谷 行秀

宮崎 幸二

クリエイティブ・ディレクション (協力) 岩崎 朋之

A Message of Thanks and Greetings from the OC Chairman

実行委員長総括

今回で7回目となった全国切手展スタンペックスジャパン 2026 は、前年同様に極めてハイレベルな作品を展示することができ、関係の皆様のご支援により無事閉幕することができました。深く感謝申し上げます。

スタンペックスジャパンは全国切手展としては規模こそ小さいものの、回を追う毎に内容が濃い競争展として認知されてきたように感じています。おそらく当展における取り組み、即ち「FIP登録審査員によるFIP基準による審査」、「外国人審査員の招聘」、「クリティークの充実」などが評価されてきたのではないかと考えております。

国内競争展では唯一となる外国人審査員の招聘は、2023年展から実現できています。今年は台湾からFIP登録審査員でFIPグランプリクラブ副会長の陳友安（Chen Yu-An）さんをお招きして、同じくFIP登録審査員である佐藤審査員長及び吉田審査員とともに厳格な審査をしていただきました。

また、会期の二日目に実施されたクリティークは、国際展でより高得点を獲得できる作品作りに資するものですが、担当の審査員との対話だけに限らず出品者の方から他の審査員を呼び止めて積極的に指導を受けるという光景が、今回も多数見受けられました。

このような取り組みの成果として、スタンペックスに出品された作品の中から、最近の国際展において第1次昭和切手作品が大金賞受賞、ステーションナリー作品が世界グランプリ受賞、初出品者が金賞受賞などと、目に見える形で現れてきたことは嬉しい限りです。今後も、今回の受賞作品が国際展に出品され、良い結果が出ることを楽しみにしております。

なお、昨年からは、IREXの英語版を作成して外国からの出品を募集する取り組みを始めましたが、今年は韓国から文献部門への出品があり、次回以降に期待が持てる状況となりました。国際展へのチャレンジを考えている国内外の収集家の皆様には、スタンペックスジャパンに、是非ご出品くださいますようお願い申し上げます。

最後に、スタンペックスジャパン 2026 にご出品いただきました皆様、ご後援・ご協力をいただきました各団体の皆様、寄付を寄せていただきました皆様、作品審査とクリティークに真摯に取り組んでいただきました審査員の皆様、そして裏方の仕事にご協力をいただきました郵政博物館と実行委員会のスタッフの皆様に変更して厚く御礼申し上げます。来年、スタンペックスジャパン 2027 におきましても、ご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2026年3月30日

スタンペックスジャパン実行委員長
横山 裕三

The Organizing Committee
Chairman
YOKOYAMA Hiromi



実行委員会スナップ / The OC members



設営終了後にスタッフ全員で記念写真, The OC members at the mounting (2026.3.26)



設営は、2026年3月26日に、また撤去は同3月31日に行いました。実行委員は両日とも13:30集合で、共に予定時刻の17時までには終了しました。なお、切手コレクション展示パネルの設営・撤去は例年同様、業者に委託しています。

STAMPEX Japan 2026, Jury Report

STAMPEX JAPAN 2026 審査総評

スタンペックス・ジャパン 2026 が3月28日から30日の3日間開催されました。一般競争部門に14作品、88フレームの出品を得、加えて文献部門に5作品が出品されました。

今年の特徴としてはFIP世界切手展でゴールドを得た作品が5作品出品され、また出品者の中にはFIP登録審査員が2名、FIAP審査員が1名おられました。これもスタンペックス・ジャパンが基本的にはFIP/FIAP登録審査員により、FIP基準で審査を行うことが評価されたものと自負しています。

今回は台湾よりアジア郵趣界の重鎮であるチェン・ユー・アン氏を審査員としてお招きしました。残念なことに予定されていた設楽さんが体調を崩され審査に参加できませんでしたが、FIP登録審査員2名とFIAP登録審査員1名、さらにアプレントイス審査員1名の4名で厳正な審査を行い、一般競争部門でラージゴールド7作品、ゴールド3作品、文献部門でラージゴールド1作品、ゴールド1作品など授賞しました。

今年は初めて韓国から文献の出品がありました。昨今の難しい状況下で残念ながら中国からの出品が叶わなかったとも聞き及びました。スタンペックス・ジャパンが東アジアで評価され、将来的に日本および近隣諸国からの出品が多数寄せられるようになるものと期待が膨らみます。

今年はベテランの出品が多くありましたが、残念なことにタイトルページが説明文になっているものがまだ多く見られました。最新の基準ではこのようなタイトルページは不十分と見做されます。タイトルページの不出来は直接にトリートメントに響きますので、できればご自身で国際切手展に足を運び、様々な上位作品のタイトルページを学んで欲しいものです。加えて1列に何枚かの切手を並べる場合に、それぞれにそこに展示される根拠を明記する必要があります。スタンペックス・ジャパンの特徴としては審査員との対話がありますので、その機会を通じて最新の出品や審査の傾向を学んでいただきたいと希望するものです。特にタイトルと作品のスコアの整合性などは大きく審査に影響しますので、更なる作品の向上に努めていただきたいと願っております。

今年のスタンペックス・ジャパンを成功に導いた出品者の皆様、台湾から審査員として参加していただいたチェン・ユー・アン氏、展示などにご尽力いただいた実行委員会の皆様に審査員を代表して御礼申し上げます。

2026年3月28日

スタンペックスジャパン 2026 審査員長

佐藤 浩一



STAMPEX Japan 2026 was held over three days from March 28 to 30. A total of 14 entries comprising 88 frames were submitted to the regular classes, and 5 entries to Literature class.

A notable feature of this year's exhibits was the inclusion of five entries that had previously won Gold at FIP World Stamp Exhibitions. Furthermore, among the exhibitors were two FIP-accredited jurors and one FIAP juror. We take pride in the fact that this reflects the high regard in which STAMPEX Japan is held, as the exhibition is fundamentally judged by FIP/FIAP-registered judges according to FIP standards.

For this event, we invited Mr. Chen Yu-an, a leading figure in the Asian philatelic community from Taiwan, as a jury. Unfortunately, Mr. Shitara, who was originally scheduled to participate, was unable to attend due to illness. However, a panel of four judges—two FIP accredited judges, one FIAP accredited judge, and one apprentice judge—conducted a rigorous evaluation. Awards were presented as follows: in non-literature classes, seven Large Gold and three Gold awards; and in the literature class, one Large Gold and one Gold award.

This year marked the first time we received entries in the Literature class from Korea. We also heard that, unfortunately, due to the current difficult circumstances, entries from China could not be accepted. We are hopeful that STAMPEX Japan will gain recognition in East Asia and that in the future, we will receive numerous entries from Japan and neighboring countries.

STAMPEX JAPAN 2026, Activity Report

While there were many entries from experienced exhibitors this year, regrettably, we still saw many title pages that consisted solely of explanatory text. Under the latest judging standard, such title pages are considered insufficient. Since a poorly executed title page directly affects the evaluation, I encourage exhibitors to visit international stamp exhibitions in person whenever possible to study the title pages of various top-ranked entries. Additionally, when arranging multiple stamps in a single row, you must clearly state the rationale for each stamp's inclusion. A distinctive feature of STAMPEX Japan is the opportunity for dialogue with the judges; I hope you will use this chance to learn about the latest trends in exhibits and judging standard. In particular, the consistency between the title page and the scope of the exhibit has a significant impact on judging score, so I hope you will strive to further improve your exhibits.

On behalf of the judges, I would like to express my gratitude to all the exhibitors who made this year's STAMPEX Japan a success, to Mr. Chen Yu-an, who participated as a judge from Taiwan, and to the members of the OC who worked tirelessly on the exhibition and other arrangements.

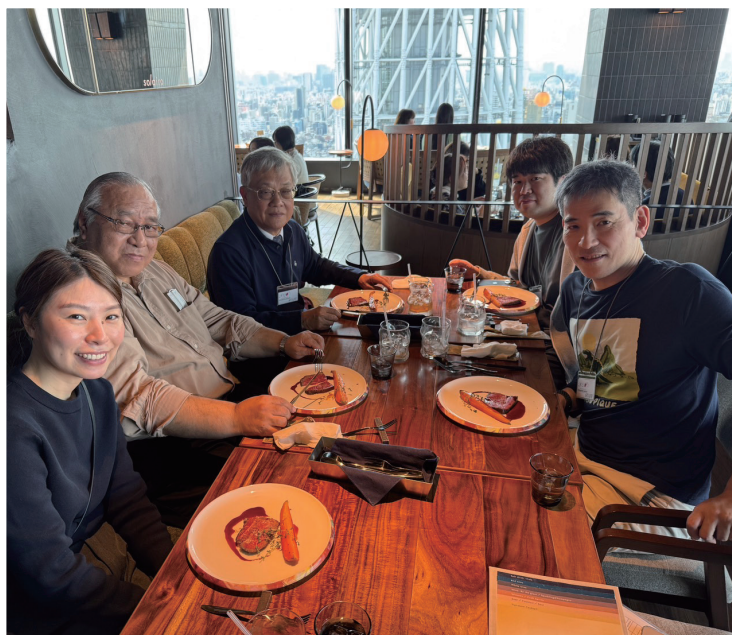
March 29th, 2026

Stampex Japan 2026 Jury President

Mr. Koichi SATO



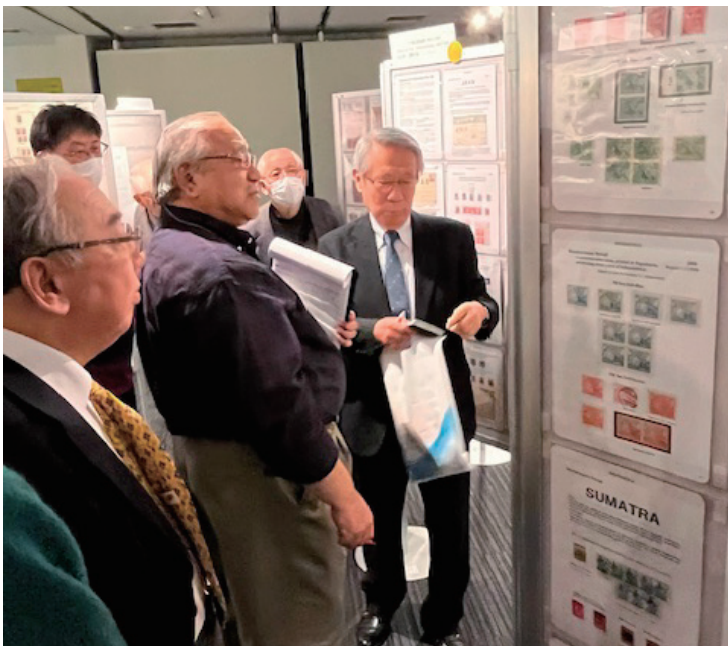
(Left to right)
Kido Yusuke, apprentice
Chen Yu-An, Jury
Sato Koichi, Jury president
Yoshida Takashi, Jury



本展覧会の審査水準を国際レベルに同等にすると共に、スタンペックスジャパンに出品された作品に対するご理解を頂き、将来それらの作品が国際切手展に出品された時に応援団になっていただくことを目的として、スタンペックスジャパンでは、2023年より毎年、外国人審査員を招聘しています。本年度で4度目の試みとなりましたが、今年はFIAP副会長の陳友安氏をお招きし、出品者からも好評を博しました。

会場の様子 / Photos

来場者数は、3月28日（土） 247人、3月29日（日） 195人、3月30日（月） 152人で、合計594人でした。The number of the attendances is 594 in total three days.

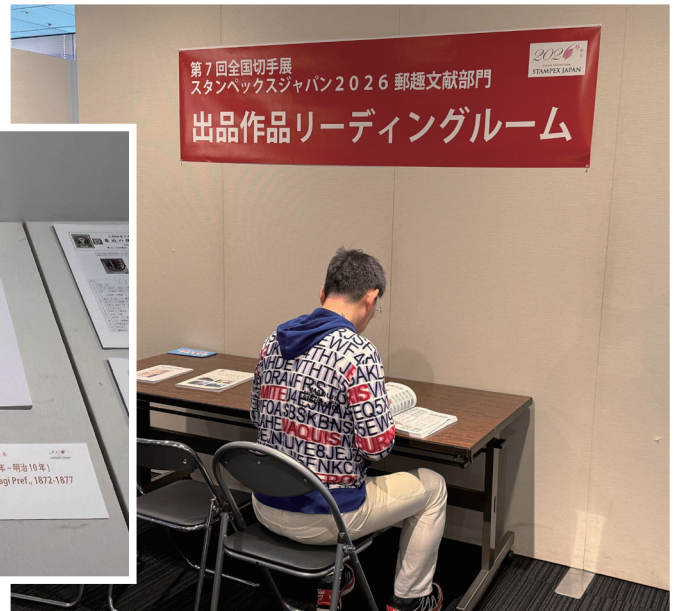


ディーラーブース（初日）：切手のガレージショップ、kitteasia、日本切手社

郵趣文献部門は、展示場のガラスケースの中と、リーディングルームの2箇所で展示されました。



The philatelic literature exhibits were displayed in two places: in a glass case in the exhibition hall and in the reading room.



リーディングルームでは、郵趣文献部門の出品作品を椅子に座って閲覧できました。

[コラム] 第1回(2025年度) 郵趣振興大賞 / Grand Prize for Promoting Philately

「郵趣振興大賞」は、特定非営利活動法人 郵趣振興協会が、2025年度に新しく開始した表彰事業で、表彰は「ジャパン・フィラテリスト・サミット」で行うことが定められています。

第1回(2025年度)となる本年の郵趣振興大賞は、高崎真一氏に授与されました。高崎氏は、多くの切手収集家が自由に切手を売買できる日本最大級の切手フリーマーケットとなるプラットフォーム「切手市場」を創設して、長年にわたり献身的に運営し続けていることが評価されました。

The “Grand Prize for Promoting Philately” is a new award program launched in fiscal year 2025 by the Society for Promoting Philately, and the awards are to be presented at the “Japan Philatelist Summit.”

This year’s award was presented to Mr. Shinichi Takasaki, who was recognized for founding “Kitte Ichiba,” a platform that serves as one of Japan’s largest stamp flea markets where many stamp collectors can freely buy and sell stamps, and for his dedicated management and sustained operation of the platform over many years.



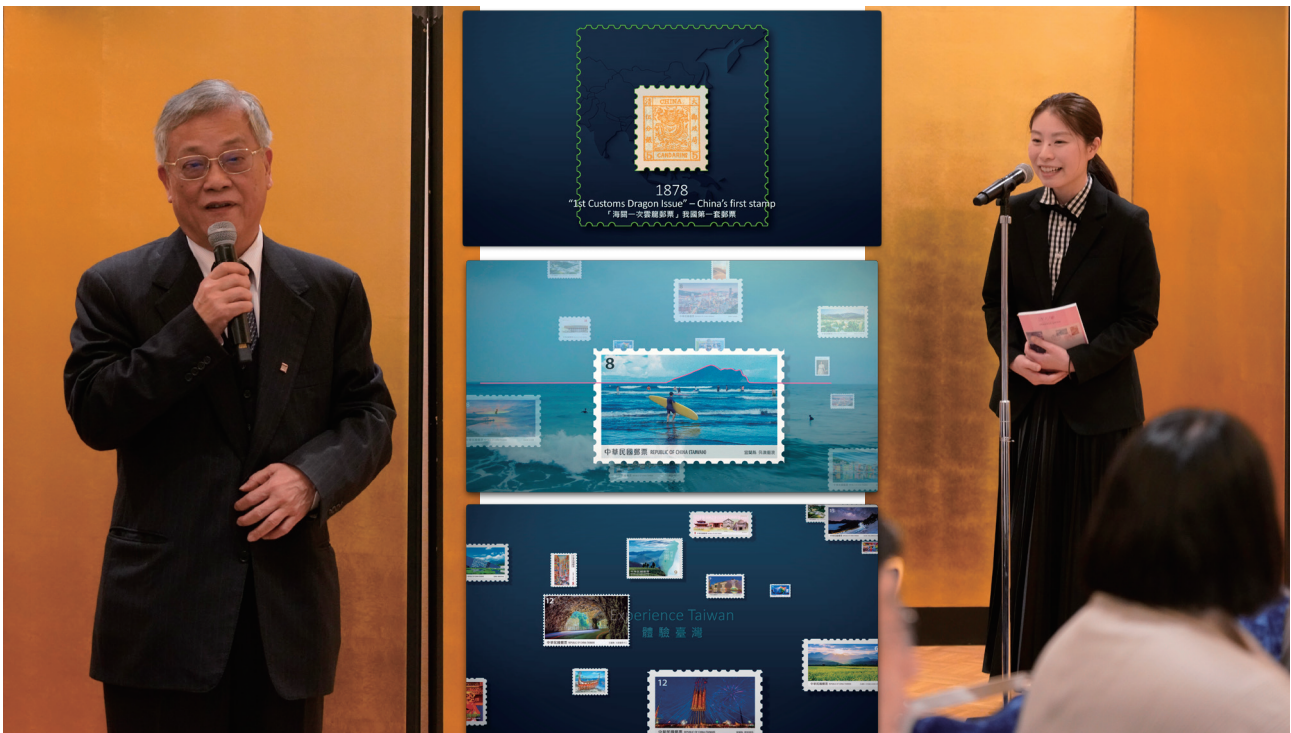
横山表彰委員(左)と高崎真一氏(右)2枚とも

ジャパン・フィラテリスト・サミット 2026 開催報告 / Palmares

「ジャパン・フィラテリスト・サミット」は、フィラテリストが一堂に介して、ゆっくり食事をしながら親交を深めることができる、一定の格式を備えたフィラテリストの交流会が、年に一度くらいあっても良いのではないかというアイデアを実現した、欧米並みの着席パーティーです。

2023年より、全国切手展「スタンペックスジャパン」の授賞式を兼ねる宴会となりました。本年の参加は51名でしたが、1割を超える6名が海外からのご参加（台湾、韓国、インドネシア）であり、会の進行も日本語 / 英語のバイリンガルで行われました。

立地の利便性や十分豪華であるにも関わらず費用対効果も良いことからご出席者の満足度も高く、来年以降も同会場を使用して本宴を開催して参りたいと考えております。



PHILATAIPEI 2026 への出品を案内する陳友安氏（左）と菊地恵実コミッショナー（右）



第1回郵趣振興大賞を受賞された、高崎 真一氏（左写真の右下、右写真の右）は、本日の主役のお一人でした。



キムヨンギル氏ご夫妻（韓国）



スウィートハルソノ氏（中央、インドネシア）を挟んで



スタンペックスジャパン 2026 審査結果 / Result

審査員会は、2026年1月より事前審査を開始した上で、2026年3月27日に、出品物の現物を審査し、19作品に対する審査結果を決定するとともに、グランプリ1点を含む特別賞3点を決定しました。

No.	展示部門	作品名称	出品者名	合計	賞
1	伝統 Traditional	手彫切手 1871-1876 Japan Etched Stamps 1871-1876	黒田 卓	90	大金
2		Japan Definitives 1883-1892, KOBAN	山田 廉一	88	金
3		Japan Tazawa Old die Definitive Series 1913-1925	丹羽 昭夫	92	大金
4		日本普通切手 1913-1938 Japan Definitive 1913-1938 Tazawa	菊池 達哉	80	大金銀
5		昭和切手 1937-1946 JAPAN:SHOWA Series 1937-46	伊藤 純英	90	大金
6		インドネシア独立戦争期 1945-1949 Indonesian War of Independence, 1945-1949	槇原 晃二	81	大金銀
7		スウェーデン "Standing Lion Issue 1920-34" Sweden Standing Lion Issue 1920-34	斎藤 環	77	金銀
8		メキシコ 1856年 ファーストイシュー Mexico-1856 First Issue	竹上 幸浩	92	大金
9		ハワイ暫定政府加刷切手 HAWAII. The Provisional Government Issues	山崎 文雄	90	大金
10	郵便史 PH	極東地域のフランス郵便局1855-1880 FRENCH POST OFFICES IN THE FAR EAST 1855-1880	若桑 正一	90	大金
11		オランダ領東インド1941年11月～1942年2月の郵便 The Netherlands Indies postal history from November 1941 to February 1942	増山 三郎	83	大金銀
12		中国国家郵政郵便史 1897-1912 Postal History of Chinese Imperial Post 1897-1912	藤本 博嗣	86	金
13	ポスタルステーションナリー PS	日本の記念特殊ステーショナリー 1936-1969 Commemorative Postal Stationery of Japan 1936-1969	須谷 伸宏	87	金
14		海軍担当地区のポスタルステーションナリー Postal Stationery Under Naval Occupation Area	守川 環	90	大金

No.	文献部門	作品名称	出品者名	合計	賞
L-1	単行本	全日本切手展史	小藤田 紘	68	銀
L-2	単行本	宮城県内郵便局の初期消印(明治5年-明治10年)-鈴木紀男氏のコレクションから-	小関 幸生	85	金
L-3	雑誌	小判切手とその時代 最近の情報	小判振舞処	81	大金銀
L-4	単行本	韓国切手専門カタログ	韓国郵趣連盟	90	大金
L-5	単行本	コレクター T 氏 - 旅と切手の物語 -	滝川 忠	56	銅



大金賞受賞者のみなさん / Large Gold Medal Award



金賞受賞者のみなさん / Gold Medal Award



金銀賞受賞者のみなさん / Vermeil Medal Award



手嶋 康 賞の授与 (左：手嶋康之社長、右：受賞者の守川環氏 /Tejima Yasuhi Award

世界よ、待っている！これが日本の国際展レベルのコレクションだ！

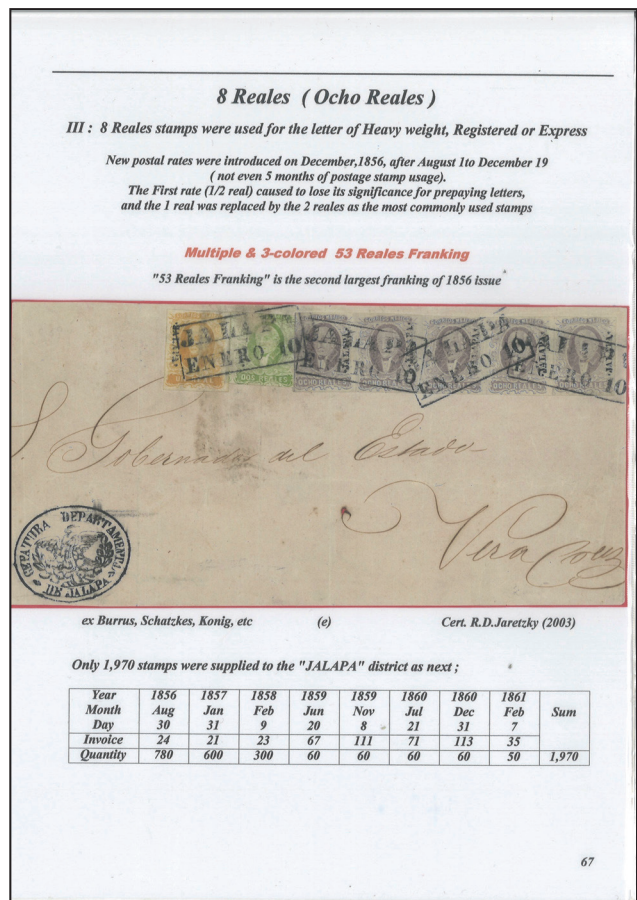
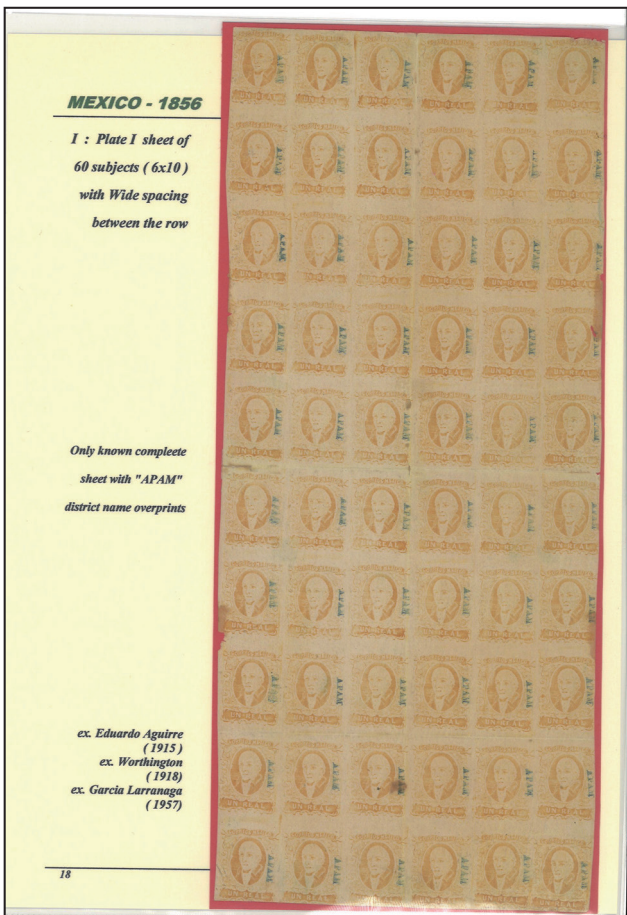
**Dear International Jury! Most Japanese International Exhibits
will go to International Level through STAMPEX Japan!
Remember the Folowing Awarded Exhibits for Your Future Judgeing.**

本活動報告書は、国際郵趣連盟に加盟する世界の郵趣団体へ送付されます。国際展審査員の大半はそれらの団体に所属している為、我が国の国際展レベルの作品の大半が出品されるスタンペックスジャパンの結果を共有することは、我が国の郵趣レベルの高さを世界に伝えると共に、当該作品の今後の国際展での活躍に大いにプラスになると考えています。

加えて、スタンペックスジャパンに招聘している外国人審査員の皆さまは、本展覧会に展示された作品を理解するだけでなく、熱心な出品者の態度に、それぞれの作品の応援団にもなってくれるでしょう。国際展への出品を目指す方は、期待する成果が得られる様に、是非スタンペックスジャパンへをご活用ください。

Grand Prix

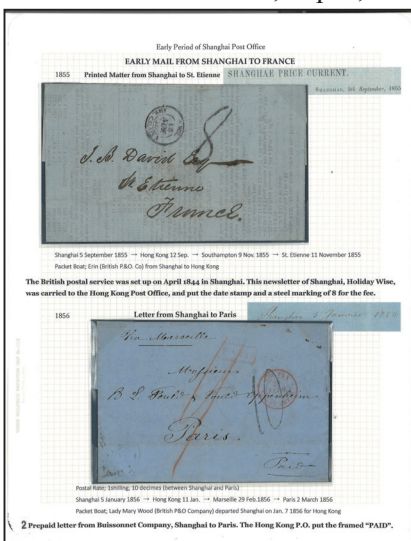
Mexico-1856 First Issue, TAKEGAMI Yukihiro, 92pts., Large Gold



HAWAII. The Provisional Government Issues, YAMAZAKI Fumio, 90pts., Large Gold



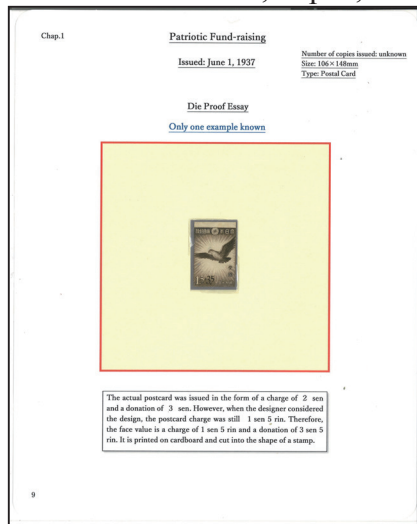
FRENCH POST OFFICES IN THE FAR EAST 1855-1880, WAKAKUWA Shoichi, 90pts., LG



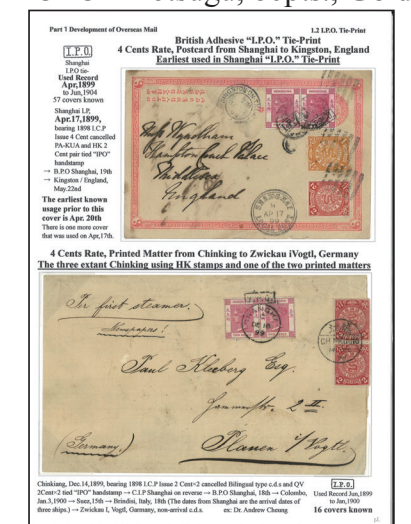
Japan Definitives 1883-1892, KOBAN, YAMADA Ren-ichi, 88pts., Gold



Commemorative Postal Stationery of Japan 1936-1969, SUDANI Nobuhiro, 87pts., G



Postal History of Chinese Imperial Post 1897-1912, FUJIMOTO Hirotsugu, 86pts., Gold



The Netherlands Indies postal history from November 1941 to February 1942, MASUYAMA Saburo, 83pts., LV



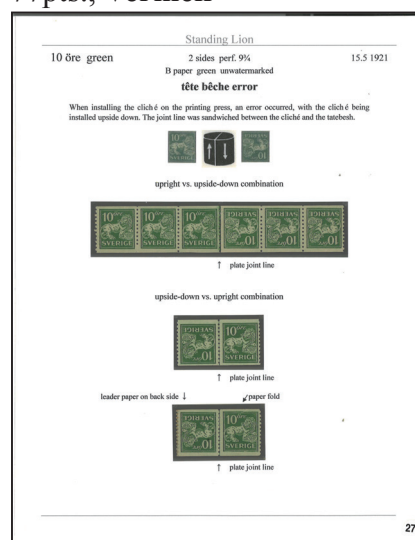
Indonesian War of Independence, 1945-1949, MAKIHARA Kouji, 81pts., LV



Japan Definitive 1913-1938 Tazawa, KIKUCHI Tatsuya, 80pts., Large Vermeil



Sweden Standing Lion Issue 1920-34, SAITO Tamaki, 77pts., Vermeil



スタンペックスジャパン 2026 クリティーク / Critique Session

審査員会は、2026年3月29日午前10時10分より13時15分までの3時間5分、実行委員会の協力の下、展示会場にて、出品者に対して、クリティークを提供しました。文献部門以外の出品作品14点の内、13点の出品者がクリティークに参加しました（参加率93%）。なお、今回はオンライン・クリティークを希望した出品者はいらっしゃいませんでした。

クリティークでは、作品の改善ポイントやその方法、また今後の戦略・戦術についてお話しさせていただきました。出品者に対しては、事前に「クリティークを活用するための準備」について動画（84分）で提供した上でお臨みいただきました。

また、ご自分の作品以外のクリティークを傍聴することを推奨したところ、多くの方がクリティーク終了時刻の13時すぎまで会場に滞在し、自分もしくは他人のクリティークに参加されていたのが印象的でした。

当展覧会では、フィードバックを最初に担当する審査員以外の審査員とも対話し、少しでも多く気づきを得ることを推奨しております。積極的にクリティークに参加することにより、今後の作品の改善が捗ることを祈念しております。

The jury team provided critiques to the exhibitors for more than 3 hours from 10:10 to 13:15 on 29th March 2026, with the cooperation of the OC. 13 exhibitors of the 14 exhibits participated in the critique (participation rate 93%).

During the critique session, the jury member discussed points for improvement in the exhibit and how to achieve them, as well as future strategies and tactics. We provided exhibitors with a video (84 minutes) on 'preparing for a critique' in advance, and asked them to watch it before attending the critique.

We also recommended that they observe critiques of other exhibitors, and it was impressive to see how many people were actively participating in the critiques.

In addition to this, we recommended that exhibitors talk to other judges after finishing their first critique jury, to get as many insights as possible. I hope that those exhibitors will be able to make significant improvements for their upcoming exhibits by actively participating in the critique.



佐藤審査員長（左）、守川環氏（右）



陳友安審査員（右）、藤本博嗣氏（右）

13作品のクリティークに対して、3名の審査員が3時間5分ずつをかけて、改善のご相談に応じました。今後も、前向きな改善のためのご相談なら、審査チームは、出品者の為にお時間をおとりしたいと思います。

寄付御礼

Donors to the Exhibition

スタンペックスジャパン2026は、特定非営利活動法人 郵趣振興協会の、
正会員・賛助会員の会費、および寄付により、運営されています。

以下のご寄付を賜りました。

厚く御礼申し上げます。

スタンペックスジャパン2026 寄付金 (一口2,000円) 合計 87口 174,000円

手嶋康之様⑤ 山田 廉一様⑤ 守川環様⑤ 池田健三郎様⑤ 鈴木盛雄様⑤
吉田敬様⑤ 小藤田紘様④ 松田伸裕様③ 鎌倉達敏様② 北野雅利様②
増山三郎様② 榎原晃二様② 伊藤純英様② 安藤裕様② 穴戸俊介様②
若桑正一様② 永井正保様② 小判振舞処様② 水谷行秀様② 菊地恵実様②
横山裕三様② 中野健司様② 滝川忠様② 伊藤文久様 斎藤環様 越農雄二様
山崎文雄様 立山一郎様 新井理様 菊池達哉様 斎享様 安藤源成様 須谷伸宏様
加藤茂樹様 宮崎幸二様 黒田卓様 木戸裕介様 藤本博嗣様 池原郁夫様
平尾勉様 飯澤達男様 城野隆三様 サミット2次会参加者様
(丸内の数字は複数口ご寄付の場合の口数です)

特別寄付

許墳様 30,000円

スタンペックスジャパン2025 文献部門 出品コレクションの販売代金 23,800円

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

正会員

水谷行秀様, 守川環様, 山田 廉一様, 佐藤浩一様, 有吉伸人様, 福澤慶明様, 新井理様,
斎享様, 安藤源成様, 菊地恵実様, 木戸裕介様, 行徳国宏様, 設楽光弘様, 横山裕三様,
長谷川純様, 柳川英幸様, 武田幸作様, 鈴木盛雄様, 大場光博様, 安藤裕様, 秋吉誠二郎様,
竹上幸浩様, 吉田敬様

賛助会員

伊藤文久様, 池田健三郎様, 山崎文雄様, 鎌倉達敏様, 北野雅利様, 松田伸裕様,
小寺雅弘様, 正田幸弘様, 中野健司様, 近辻喜一様, 立山一郎様, 増山三郎様, 石田徹様,
古家美和様, 榎原晃二様, 須谷伸宏様, 丹羽昭夫様, 宮崎幸二様, 伊藤純英様,
長谷川則之様, 福田真三様, 山崎太郎様, 町屋安男様, 飯澤達男様, 田中茂様,
藤本博嗣様, 池原郁夫様, 田邊勇様, 黒田卓様, 高久健一様, 稲葉良一様, 城野隆三様,
町田敏郎様, 小藤田紘

ジャパン・フィラテリスト・サミット2026 プラチナスポンサー

スタンペディアオークション株式会社様 Stampedia Auction, inc. 330,000円

会計速報

Preliminary Report on the Accounts

第7回全国切手展「スタンペックス ジャパン2026」ならびに「ジャパン・フィラテリスト・サミット2026」ですが、予定されていた会期を終え、撤去・作品返却も問題なく完了いたしました。

当協会の正規の決算は、今後招集される総会で承認されますが、全国展関係の会計については、毎回開催直後に速報数値を発表していますので、慣例に従い、以下の通り今回分を発表します。

収入	振興協会より拠出	512,357	支出	印刷製本費	145,215
	出品料	183,600		サミット印刷製本費	17,050
	サミット参加費	321,300		旅費交通費	177,540
	ブース出店料	40,000		通信運搬費	0
	文献販売	0		消耗品費	0
	寄付	227,800		サーバー費	11,504
	サミットスポンサー費	330,000		広告宣伝費	30,000
	合計	1,615,057		フレーム設営・撤去	154,000
		副賞費用		56,500	
		サミット外注費用		643,248	
		謝礼審査員		60,000	
		謝礼外国人審査員		100,000	
		謝礼実行委員		220,000	
		文献仕入（7掛）		0	
		新人賞引当金	0		
		合計	1,615,057		

手島康之様より日本切手未使用（額面約10万円）を協会にご寄付いただきました。（当協会活動報告(34), 2025年9月にて報告済み）
2025-2028年度についてはこれを活用し、年2-3万円かかってきた通信運搬費を0円としています。

第7回全国切手展『スタンペックスジャパン2026』の会計規模は1,615,057円で、前年（スタンペックスジャパン2025）の1,734,810円より12万円弱減少しました。

出品料やサミット参加費などの独自収入で不足する金額を補うために、郵趣振興協会からは昨年とほぼ同等の51万円強の拠出金を実行委員会に渡しています。

サミット外注費用および外国人審査員の招聘に伴う費用を初めとする各種費用は決して小さいものではありませんが、本展覧会に関わる行事の高水準や郵趣振興の仕組みを維持するために必要な経費であると考えています。

また、当協会の現在の主な行事はスタンペックスジャパン及びサミットであり、協会自体への寄付金収入の増加も踏まえ、収入・支出の面からも十分に本展覧会への予算支出はカバーできており、健全な事業規模の範囲であると考えています。

本展覧会を会費によりご支援くださいました正会員・賛助会員の皆様、また本展覧会・サミットにご寄付をくださいました皆様に重ねて感謝申し上げます。

STAMPEX JAPAN

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN TOKYO SKYTREE TOWN SORAMACHI